

教職コンソーシアム通信

学びの架け橋



人にまっすぐ。
大阪教育大学

01 キャンパスガイドを開催

02 リレーエッセイ

03 加盟校出身学生の紹介

04 交流事業の紹介

06 加盟校の取組紹介

07 大教大トピックス／編集後記

3年ぶりに「キャンパスガイド2022 ～大教大をまるごと体験しよう!～」を開催

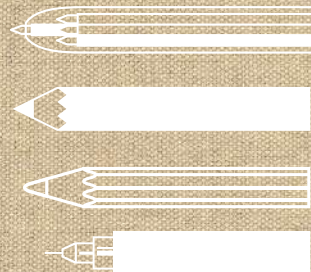
キャンパスガイド2022～大教大をまるごと体験しよう!～を、10月23日(日)、3年ぶりに柏原キャンパスで開催しました。





RELAY ESSAY

リレーエッセイ



学校における「行動に関する問題」を解決するには？

高度教職開発系（高度教職開発部門）准教授 庭山 和貴

学校現場で起こる問題は、実はその多くが「行動に関する問題」として捉えることができます。例えば、集中して学習に取り組むことができない、積極的に発言・発表しない、自分の意見や気持ちを上手く話すことができないなど、教員からすると「して欲しい『望ましい行動』をしてくれない」、生徒からすると「よいことは分かっているけどできない」問題があります。また、授業中に騒ぐ、自分の意見を押し通そうとする、友達とケンカをするなど、教員からすると「して欲しくない『問題行動』をする」、生徒からすると「よくないことは分かっているけどしてしまう」問題もあります。

こうした行動に関する問題を解決していくための効果が実証されたアプローチとして、『応用行動分析学（ABA）』という学問や、これに基づく『ポジティブ行動支援（PBS）』という支援枠組みがあります。応用行動分析学やポジティブ行動支援について学ぶことで、教員が生徒の行動改善をサポートしていくことができるのはもちろん、生徒が自分自身の行動改善を行っていくことも可能です。

行動に関する問題を解決するうえでまず重要なのは、問題行動と望ましい行動は同時にはできず、望ましい行動が増えれば問題行動は自然に減っていくということです。例えば、授業妨害になるほどの私語をすること（問題行動）と、集中して課題に取り組むこと（望ましい行動）は、まったく同じ瞬間に行うことはできません。集中して課題に取り組む時間が増えれば増えるほど、相対的に私語をする時間は必ず減っていきます。よって、「望ましい行動が少ない」問題は当然として、「問題行動が多い」場合においても、望ましい行動を伸ばしていくことが極めて重要です。私達はどうしても問題行動に注目し、これを減らすことに力を注ぎがちです。しかし、問題行動を減らしていくには、実は「問題行動の代わりになるような望ましい行動を伸ばす」という観点が大切なのです。

伸ばしていく望ましい行動（以下「目標行動」とします。）を考える際、適切な目標設定をすることも大切です。いきなりハードルを上げすぎず、「今でもたまにできる」くらいのところからスタートしましょう。できるようになってきてから、徐々に目標行動を高度なものにしていくことが大切です。

さらに、目標行動を引き出す工夫をすることと、目標行動へのフィードバックをすることの2点も必要です。目標行動を引き出す工夫としては、具体的に何をしたらよいかを言葉にして伝える、一緒に考える、お手本を見る、物理的環境の工夫などが考えられます。目標行動について、どのタイミングで、まず何をするかまで具体化し、これを言葉にしたり、お手本を見たりすることで、行動しやすくなります。また、目標行動ができた際に「できた！頑張った！」と思えるようなフィードバックがあることも大切です。目標行動ができた際、きちんとそれが認められる、報われるなど、好ましい結果が伴うことで、その行動が続けやすくなるからです。他者から認められることはもちろんですが、生徒自身が「目標行動ができたか」を定期的に振り返り、自分自身を認めていく機会を設けることも大切です。小さな成功体験を積み重ねていくようにしましょう。

それでは、上記のような工夫をしても行動が改善しない場合はどうしたらよいのでしょうか？その際には、目標行動の設定が適切か再確認し、さらに目標行動の引き出し方とフィードバックの仕方を改善していきましょう。個人を責めず、「目標設定が適切か？どのような工夫をしたらできるのか？その行動をすることは本人にとって意味があるのか？」という観点を徹底し、工夫し続けることが大切です。ポジティブ行動支援では、こうした行動支援を通じて、児童生徒はもちろんのこと、教職員も含めた学校関係者のQOL（生活の質）向上をめざします。興味をお持ちになられた方は、日本ポジティブ行動支援ネットワーク（<https://pbsjapan.com>）のウェブサイトをご覧ください。



庭山 和貴 にわやま かずき
高度教職開発系
(高度教職開発部門) 准教授



加盟校出身学生の紹介

あまこし

雨越

はるか

晴香さん

学校教育教員養成課程 小中教育専攻 理科教育コース 3回生
八尾高校 令和2年3月卒業

高校時代の思い出は

部活動です。私は硬式テニス部に所属していました。私自身が大きな功績を残せたわけではないのですが、部活動に毎日参加し、試合に向けて練習した日々や、涙が出るくらい悔しい気持ちになったこと、仲間の試合を自分のことのようにチーム一丸となって応援したことなど、高校生活でしか味わうことのできない、とても素敵な思い出です。

なぜ大阪教育大学をめざしたのか？または将来の目標

小学校に入る前から「先生」に憧れを感じていました。小学校や中学校、高校で尊敬でき、目標となる先生方に出会ったことをきっかけに、憧れが夢に変わりました。大阪教育大学を選んだ理由は、卒業時に教師になるための免許を取れることはもちろんですが、何よりも教師になりたいという同じ夢を持った学生とともに学ぶことができるという環境に魅力を感じたからです。

専攻の良いところ

小中教育専攻理科教育コースの強みは、所属学生それぞれが確固とした意見を持っており、話し合い活動が盛んに行われることだと思います。現在、教育現場で主体的に対話的な学びが大切にされているなかで、学生のうちに、実際に話し合いを通して学びを深めるという経験ができているのは、将来の夢の実現のために大きな一歩であると感じています。

クラブ・サークルは何をやっていますか？

または大学生活で頑張っていること、楽しいこと

子どもたちと関わる機会に、積極的に参加することを心掛けています。クラブやサークルには参加していませんが、子どもたちと一緒にキャンプへ行く団体に所属していると、学生ボランティアとして、小学校で子どもたちの学習支援を行っています。子どもたちとの関わりのなかで、出来なかったことができるように

なる瞬間に立ち会えることがとても嬉しく、やりがいを感じています。いつか素敵な「先生」になるために、これからも精一杯学び続けたいと思います。

おすすめの受験勉強法

「自分に自信をつける勉強」をしていました。具体的には、好きな教科を伸ばす勉強法です。もちろん志望校に受かるためには、苦手な教科を含め全教科勉強することは必要です。しかし、そのなかでも、「どんな問題が出て解ける」と自信を持って言えるぐらい、最大限の努力を尽くして理科の勉強をしていました。誰にだって苦手はあり、全てを完璧にこなせる人なんていません。だから、自分の強みを持って、「これだけ勉強したのだから大丈夫」と落ち着いて、自分の力をしっかり発揮できる状態で受験に挑んでほしいと思います。

大学生生活を有意義に過ごすには

大学生になると時間をどのように使うかは自分次第です。さらに、大学生は自由度も高まり、やってみたいことがなんでも出来るようになります。ぜひ、大学生にしかできないことを沢山経験してほしいと思います。

多くの人と出会い、実際にに関わり、学ぶことができる時間がたくさんあるのは大学生までだと思います。出会った人たちからは、自分の視野を広げてくれるような、学びを得ることができます。だからこそ、自分が自由に使える時間を、ほんの少しでもいいので、将来の糧になるような有意義な活動に使って欲しいと思います。



わたなべ

渡邊

ひろき

裕宜さん

教育協働学科 理数情報専攻 自然科学コース 2回生
池田高等学校 令和3年3月卒業

高校時代の思い出は

体育祭や文化祭など良い思い出がたくさんありますが、中でも部活動の思い出が大きいです。私はアメリカンフットボール部に所属していました。アメリカンフットボールに関する知識が全くなかったのですが、だからこそ新しい自分に生まれ変わるチャンスだと思い入部しました。身体能力はもちろんのこと、1プレーずつの作戦を考える思考能力、そして仲間を信じて自分の役割を全うするチームワーク…まさに心・技・体の全てが詰まっていて、ここでの経験が自信になりました。

なぜ当該専攻をめざしたのか？または将来の目標

将来は高校の化学を教える先生になりたいと思っています。しかし、ただ化学を教える先生よりもそれに関連した自然科学知識を結びつけて、より深い学びを与える先生の方が、今後の移りゆく学校現場では必要とされるのではないかと私は考えています。だからこそ自然科学全般について学ぶことが出来る自然科学コースを選びました。

専攻の良いところ

多くの高校では受験に向けて2科目に絞る理科ですが、自然科学コースでは物理・化学・地学・生物の4科目を満遍なく勉強することが出来ます。自分の専攻分野を途中で変更することも可能です。自分が知らない分野を学ぶことで新しい知見を得ることができるのがこのコースの魅力だと思います。

クラブ・サークルは何をやっていますか？

または大学生活で頑張っていること、楽しいこと

大学生活では、できるだけ多くの分野に触れてみることを目標にしています。専攻で、自然科学全般を学ぶことが出来るというアドバンテージを活かして、ひとつの科目に偏らないように授業を選択しています。他にもアクセシビリティリーダーという資格を取り、自分が将来教師になった時に必要な知識をできるだけ身につけようと頑張っています。新たな知識を得ることは、新たな自分を見つけることと同義で、驚きと発見に満ち溢れた楽しい毎日を送っています。

おすすめの勉強法

どの科目においても答えを開きながら勉強をしていました。もちろん、答えを丸ごと写すことに意味はありませんが、分からない問題に10分も唸るくらいなら、その問題と次出会ったらどのように解答すればいいのかわかるように身につける方が効率的な勉強方法だと思ったからです。この時に大切なのは、暗記をするのではなく、自分で問題と解法を納得する形に落とし込むことです。決して解法はひとつではないので、余裕があれば他の方法を考えることも気分転換になりました。

大教大の良いところ

他の教育大学と比べて、学校安全についての学びがとても深いです。大阪教育大学は過去に附属池田小学校にて痛ましい事件がありました。もう二度と同じ過ちは繰り返さないという強い思いと共に学校安全という分野に力を入れるようになりました。教員として子どもの安全を確保するためにどのように行動することが必要なかを深く学ぶことができるのが大阪教育大学の良い点です。

大学生生活を有意義に過ごすには

あれこれ考えずにとにかく経験することだと思います。大学生は成人しているけれども、まだ社会には出ていないという、ある意味フリーな存在です。しかし、その期間は短くて4年間しかありません。だからこそ、自分がやりたいことをかたっぱしから経験して少しでも後悔しないことが大切だと思います。私は大阪大学のRPGサークルに所属していますが、これは楽しそうだからという理由だけで始めました。このように1歩を踏み出す勇気を持つだけで、楽しく明るい大学生活を送ることができると私は考えています。





教師をめざす高校生の育成プログラム 「教師にまっすぐ」修了式を実施

教師をめざす高校生が志をより確かなものにするためのプログラム「教師にまっすぐ」の第6回修了式を12月24日(土)に柏原キャンパスで実施しました。これは、大阪府立高校42校で構成する「府立高校教職コンソーシアム」の加盟校の2年生を対象に実施するもので、7年目となる取組です。

まず初めに、大学生4名の進行により、高校生らはそれぞれ自己紹介を兼ねたゲームに取り組むなど、アイスブレイクを行いました。続いて、坂本俊哉学長補佐が開催の挨拶を述べました。その後、学校教育部門の池嶋伸晃教授による講義「教師にまっすぐを振り返って」を受講した後、第5回同プログラムの課題である小論文の講評及び表彰を行いました。



アイスブレイクの様子

45件の小論文から優秀賞として6作品が選ばれ、その中からグッドモデル小論文に選ばれた大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎の木村希湖さんが「不登校は悪か、また不登校児童生徒への対応について」と題

した小論文を、同校平野校舎の西山歩佳さんが「正しい鉛筆の持ち方の必要性」と題した小論文をそれぞれ朗読しました。

最後に「教師にまっすぐ」受講後の感想を交流し、今回、学んだことや感じたことを発表しました。その発表を受け、大学生からは激励の言葉が送られ全日程を終了しました。

参加した高校生からは、「教師になりたいと思っている他校の生徒たちの意見を聞くことができて良い経験になりました」「大学生との交流が多く、色々な考え方を聞く事やいただいたアドバイスが自分自身のためになったと思います」などの感想が寄せられました。



小論文の優秀賞表彰の様子(左、坂本学長補佐)



記念撮影



EXCHANGE PROGRAMMES

府内高校教員を対象に
教師の学び舎特別講座を開講

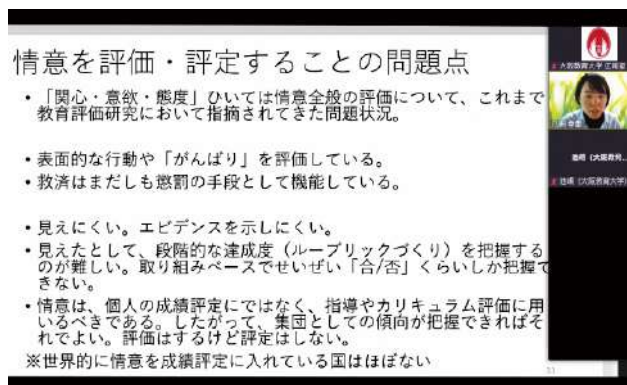
受講生からは「そもそも観点別評価とはどのようなものか、そして『主体的に学習の取り組む態度』をどう評価すべきかについて教えていただけたことが大変助かりました」「今回学んだことや、グループワークを通して知った他の学校での状況や対応について、自分の職場に共有したいと思います」といった感想が寄せられました。

教師をめざす高校生を対象とした
作文コンクール2022
Leading to the Future
表彰式を実施

表彰式後に実施された懇談会では、岡本学長は「皆さんと近い将来、このキャンパスで再会できる日を楽しみにしています。目標に向かって頑張ってください」と激励の言葉を送りました。



岡本学長と懇談する受賞者



講義の様子(右 八田准教授)



岡本学長・坂本学長補佐と受賞者の記念撮影
(左から坂本学長補佐、受賞者4名、岡本学長)



加盟校の取組紹介

MEMBER HIGH SCHOOLS'
PROGRAMMES

八尾翠翔高校 — 教職トライ専門コースの紹介 —

八尾翠翔高校は2002年に八尾東高校と八尾南高校の統合により、八尾東高校の校地に普通科総合選択制の学校として開校しました。2006年に「ともに学び、ともに育つ」教育の推進に向け『知的障がい生徒自立支援コース』を設置、2015年に普通科専門コース設置校へと改編し、現在は3つの専門コース(人文ステップアップ・理数ステップアップ・教職トライ)を設置する普通科高校として21年目になります。



学校は八尾市南東部に位置し、校地の南端は柏原市です。臨めば東に信貴山、西に恩智川が流れ、緑豊かな風景に囲まれた広い校地で、生徒たちはいきいきと高校生活を送っています。開校以来、生徒一人ひとりの持つ力を最大限に伸ばし、希望進路の実現とともに社会人基礎力を培うサポートをし、人間性豊かな人材育成を図る教育活動を進めています。そのような本校で、2021年度、2年次より実施している『教職トライ専門コース』を紹介します。

教職トライ専門コースとは

このコースは、教員養成系大学に進学し、教職課程を経て、将来教員になりたいと考える生徒を対象に、教員になるための資質を育むことを目標としたコースです。特色あるカリキュラムとして、2年次の「教職講義」と3年次の「教職実習」があります。

教職講義

「教職講義」は毎週金曜日の5・6時間目、大阪教育大学をはじめ連携大学等の教員養成に関わる大学教員による講義を行います。本年度は9大学14名の先生



方が講師となり、テーマは、教員のやりがい・先生の責任・集団づくり・いじめ問題・障がいのある生徒への支援の他、正しい姿勢・トレーニング指導・集団プレイの基本等、身体

を使った講義など多様な内容となっています。特に、大阪教育大学には、大学教員による年間16講座中6講座を受け持っていただき、内、3講座は同大学の柏原キャンパスで行いました。生徒は大学生との交流やキャンパスライフ体験を楽しむことができました。

授業見学で思うのは、全講座において、各先生方が100分間の授業で生徒たちにグループワークやプレゼンをさせたり、大学生をファシリテーターにして議論を深めさせたりと様々に工夫され、生徒たちは期待に応えようと頑張り、結果、生徒の成長が目に見えて感じられるということです。1年間の授業を振り返って、生徒たちからは「普段の授業で学習しないことが学べた」「コミュニケーション力がついた」「人前で話すことに自信が持てた」等の感想を聞いています。

教職実習

「教職実習」は八尾市教育委員会と連携協力し、市教委を通じた実習受入れ依頼に対し、本年度は14小学校で本校3年生を実習生として受け入れてくださいました。生徒たちは毎週金曜日の午後、実習先の小学校へ行き、子どもたちと学習や遊びを通じてふれあい、先生方の多種多様な業務のお手伝いをしました。年間通じて一人2校の実習経験から、教師という仕事の魅力としんどさ、やりがいと難しさ等を学びました。実習を終えた生徒の中には小学校教諭の魅力に惹かれ、漠然とした教師になりたいという思いから、「将来小学校の先生をめざす」へと目標をはっきり持つようになった者もいます。



これから

『教職トライ専門コース』は始まったばかりのコースで、実習先の拡大等課題はまだありますが、今後も大学や八尾市教育委員会等との連携を深め、生徒たちが希望を持てるようなコースにしていきたいと考えています。将来、このコースの卒業生が教壇に立ち、学校現場で活躍してくれることを願っています。

大学祭「神霜祭」を 3年ぶりにリアル開催

秋の大学祭「神霜祭」を、11月2日(水)、3日(木・祝)、4日(金)の3日間にわたり柏原キャンパスで開催し、一般客と学生・教職員を合わせて約2500人が訪れました。

2022年の神霜祭のテーマは「彩」。このテーマには、大学祭準備会(通称：大学祭実行委員会)の「コロナ禍で何かと制限の多い今だからこそ『彩』り溢れた時間を参加した方に届けたい、その時間が皆様の『彩』られた思い出として心に残るものとなってほしい」という願いが込められています。

3日間を通して、アカペラサークルやバンドなどの音楽ライブ、ダンスサークルによるパフォーマンス、焼きそば・わたがしなどバラエティ豊かな模擬店、プログラム教材体験・脱出ゲームなど個性あふれる教室企画に至るまで、多彩なイベントが繰り広げられました。



大学祭「神霜祭」の様子

芸術表現専攻音楽表現コースが 第66回定期演奏会を開催

教育協働学科芸術表現専攻音楽表現コース学生らによる第66回定期演奏会を、11月17日(木)にザ・シンフォニーホールで開催しました。今回は、指揮者として若手時代から多数の賞を受賞し、世界でも高い評価を得ている松尾葉子氏を客演指揮に迎えました。

開演に先立ち、「プレコンサート」として少人数のグループによるアンサンブル演奏を行いました。以前はエントランスロビーで行っていたもので、コロナ禍のため取りやめていましたが、ステージでの演奏に変更して3年ぶりに復活。今回は1～2回生がクラリネット四重奏とトランペット五重奏を披露し、来場者を歓迎しました。

コンサートは、ベルリオーズ作曲『序曲「ローマの謝肉祭」作品9』の盛大な祭りの熱気とともに幕を開けました。ドビュッシー作曲『「牧神の午後」への前奏曲』ではフルートの独奏パートを中務晴之教授が担当し、物憂げで儂いまどろみの世界に観客を誘いました。続いてモーツァルト作曲『交響曲第25番 ト短調 K.183』が演奏され、最後はベルリオーズ作曲『幻想交響曲 作品14』で、叶わぬ恋心を抱いて苦悩し狂乱していく芸術家の感情を見事に表現し、観客から大きな拍手が送られました。



客演指揮の松尾葉子氏

フルートを演奏する中務晴之教授



コンサートの様子

編集後記

10月から学内異動で、本事業に関わらせていただくことになりました。

本事業の初めの業務は、キャンパスガイドですが、その中でも印象的だったのは高校生と大学生らによるパネルディスカッションで高校生が話した「めざす教師像」についてです。早い段階から将来になりたい職業をみつめることは簡単なことではないですが、どのような先生になりたいかを話す高校生の輝く表情を見て、応援したい気持ちでいっぱいになりました。

教員という職業は大変なイメージが強いですが、大阪教育大学では教員のやりがいや素晴らしさを伝えるため、教職経験者の方から「教師冥利に尽きるエッセイ」、逆に生徒目線の「恩師への手紙」を集めて情報発信をしています。昨年9月にはエッセイを原作としたボイスドラマ3本を公開しました。気になる方はぜひご覧ください!(A.M)

エッセイやボイスドラマについては大学公式ウェブサイトでご覧いただけます。



府立高校教職コンソーシアムは、すぐれた資質を備えた次代を担う魅力ある「教員」を育てるために、本学をはじめとする教育系大学と連携し、「教員になること」を具体的にイメージできる機会を与えることを目的として、大阪府内の32府立高等学校間で平成26年末に結成されました。現在は42校が加盟しています。



大阪教育大学のSNSアカウント



公式Twitter

<https://twitter.com/OsakaKyoikuUniv>



公式Facebook

<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>



公式YouTube

<https://www.youtube.com/user/OKUChannel>



公式Instagram

<https://www.instagram.com/osakakyoikuuniv>



イベント情報やニュースなど、大教大の「今」を発信しています。ぜひフォローしてください。